

平成28年度 過疎地域自立活性化  
優良事例表彰



**総務省地域力創造グループ過疎対策室**

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2  
TEL 03-5253-5536 FAX 03-5253-5537  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm)

**全国過疎地域自立促進連盟**

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-13-5 第一天徳ビル3階  
TEL 03-3580-3070 FAX 03-3580-3602  
<http://www.kaso-net.or.jp/>

# 過疎地域自立活性化 優良事例表彰受賞団体



## 表彰受賞団体一覧

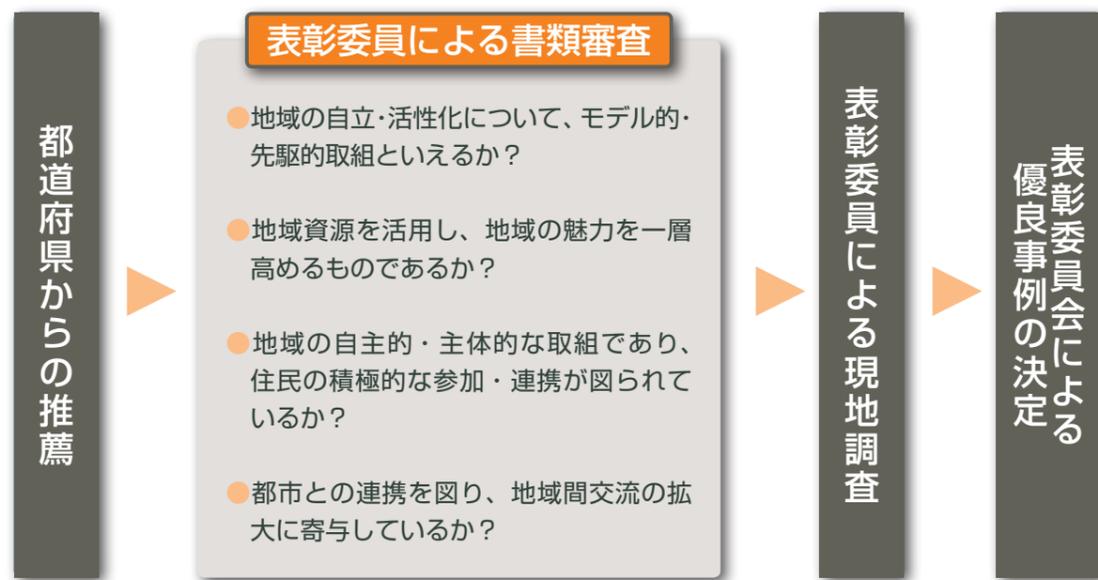
	青森県 八戸市 八戸市	南郷アートプロジェクト 南郷 Re-collection :見つけにいこう、まだ知らない南郷を
	新潟県 長岡市 公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター	多様な人材による中越の新しい地域づくり 「にいがたイナカレッジ」
	奈良県 川上村 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語	「水源地の村」発！ つなぐ、つたえる、つづける 森から海へ、奈良・和歌山の県境を越えた流域連携のしくみ
	岡山県 高梁市 宇治地域まちづくり推進委員会	住民総働のまちづくり ～宇治町を次世代につなぐために～
	鹿児島県 始良市 特定非営利活動法人 Lab 蒲生郷	小さく光るまちみがき
	長野県 長野市 特定非営利活動法人 ふるさと	ふるさとの冠婚葬祭をわが手でプロデュース
	静岡県 浜松市 特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	みんなで汗かき がんばらまいか
	奈良県 五條市 特定非営利活動法人 うちの館	古代からの贈り物 「宇智の大野」を未来へ
	和歌山県 九度山町 真田いこい茶屋	“元気な笑顔でおもてなし” おばちゃん達による地域活性化への挑戦

# 過疎地域自立活性化 優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあります。しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中で、過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興等を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与することが期待されています。

このことから、本制度は、過疎地域の自立促進に資するため、地域の自立と風格の醸成を目指し、創意工夫により過疎地域の活性化が図られている優良事例について表彰を行うものです。



**日 時**：平成 28 年 10 月 13 日 (木) 13 時 20 分  
**場 所**：かしはら万葉ホール  
 (全国過疎問題シンポジウム全体会会場)  
 奈良県橿原市小房町 11 - 5

## 平成28年度表彰委員会委員 (敬称略)



委員長 **宮口 侗迪**  
早稲田大学教育・総合科学学術院教授



委員 **関司 直也**  
法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授



委員 **谷 隆徳**  
(株)日本経済新聞社論説委員兼編集委員



委員 **西山 未真**  
千葉大学大学院園芸学専攻准教授



委員 **平尾 由希**  
フードコーディネーター元NHKキャスター

## 委員長講評

宮口 侗迪

過疎地域の未来を照らす多くの取組みに対し、嬉しい悲鳴を上げながら、総務大臣賞5団体、過疎連盟会長賞4団体を選定させていただきました。今回は市や市に拠点を置く団体、さらに合併で一部過疎指定となった地域の活動が多くを占めました。平成の合併後 10 年を経て、それを前提に新しい活動が育っていることを物語っていると思います。

総務大臣賞の青森県八戸市は工業都市ですが、合併した旧村地区の豊かな自然と農山村の伝統文化の価値を大きく位置付け、「南郷アートプロジェクト」という複合的な取組みで地域の文化資源と現代アーティストの協働を仕掛け、農山村に新しい輝きを生み出していることが注目されました。新潟県長岡市の中越防災安全推進機構の「ムラビト・デザインセンター」は、「にいがたイナカレッジ」という中越地震の復興活動の一環のインターンシップ事業で、過疎の農山村の価値を都市の若者に実感させ、定住に結び付けるなど、地域独自の人材誘致に成功しています。奈良県川上村の「吉野川紀の川源流物語」は、ダム建設に揺れ動いた奥地山村が「水源地の村」というコンセプトのもとにつくられた財団で、水源地ツアーなど、水が生まれる山村の自然の価値を都市の小中学生を始め多くの人に伝えていきます。最上流地域での 15 年にわたる活動はこの上なく貴重です。岡山県高梁市の「宇治地域まちづくり推進委員会」は、地域振興を一体的に担う先駆的な地域運営組織として、農村民泊や移住者の受け入れに成果を上げ、さらに近年、地域を次世代につなぐ新しい展開が着実に生まれていることに大きな評価が集まりました。そして、鹿児島県始良市の「NPO 法人 Lab 蒲生郷」は、一部過疎の旧町での住民の組織ですが、地域資源の価値の共有を働きかけ、発展の方向

性を明確化する活動の中で住民の輪が大きく広がりました。新旧住民の温度差を力にしつつ、風通しのいい雰囲気が多く移住につながっていることが高く評価されました。

連盟会長賞の長野市の「NPO 法人ふるさと」は、一部過疎の旧信州新町の商店街の有志が、葬儀などのセレモニーと関連商品を地元で受注することで商店街を活性化しようと、9人の事業者による巧みな分担で多くの葬儀を受注し、地元の経済循環に大きく寄与しています。浜松市の「NPO 法人がんばらまいか佐久間」は、一部過疎地域での旧町単位の先駆的な地域運営組織です。7つの活動委員会は地区の垣根を取り払い、敬老会や成人式の挙行、NPO タクシーなど、地域に「なくてはならないもの」としての持続性が高く評価されました。奈良県五條市の「NPO 法人うちの館」は、登録文化財の藤岡家住宅の維持・管理に努める一方で、その場を文化・芸術・観光に関わる交流活動の拠点として活用し、小中学生の課外授業などでも過疎地域における郷土愛の醸成に大きく貢献しています。最後に、和歌山県九度山町の「真田いこい茶屋」は、町の休憩所の閉鎖を受けて女性たちが開設し、観光案内所の役割に加えて手づくりのお弁当販売などで、地域住民の憩いの場にもなっています。楽しく地域貢献をという姿勢は、多くの地域のお手本になるものでしょう。

以上の表彰団体に、NPO や財団など、明確な目的を持って地域の新しい展開を図るための団体が目立ったことは、過疎地域に生まれた新しい活力として積極的に評価することができます。過疎地域の資源は、自然、伝統文化、そしてそれらを今の時代に価値あるものとして活かす、外部の人をも交えた人のパワーとセンスだということをあらためて申し上げて、講評とさせていただきます。



## 南郷アートプロジェクト 南郷 Re-collection : 見つけにいこう、まだ知らない南郷を



島守神楽保存会と「Co. 山田うん」とのコラボレーション作品「ショーメン〜島守神楽バージョン〜」を山の楽校のひまわり畑・そば畑で上演。

### 事例の概要



アーティスト山本耕一郎さんが住むことになった空き家の掃除に集まったみなさん

南郷地区は、青森県南東部の岩手県北部と隣接する県境に位置しており、平成 17 年 3 月 31 日に八戸市に編入合併した農山村地域である。

昭和 45 年に過疎地域に指定されて以来、各種の過疎対策を実施し、地域の活性化を図ってきたが、人口減少及び少子高齢化により、地域の担い手の育成が課題となっていた。

このような中、八戸市では南郷地区の日常の暮らしの中に「アート」を絡めたプロジェクトを開始した。

この南郷アートプロジェクトでは、民俗芸能や自然など豊富な地域資源に恵まれた南郷地区を舞台に、地域主体で実施してきたジャズフェスティバルにちなんだ公演をはじめ、閉校する小学校における映画制作やダンス公演など、地域住民の参画を得ながら、地域資源を題材に様々な事業を実施している。

これらの事業の中で、地域住民が市外から招聘したアーティストと交流を図りながら作品を制作することにより、世代間交流の促進、文化芸術の振興・継承、地域に対する誇りやアイデンティティの醸成を図っている。

### 評価のポイント

平成 17 年に八戸市に合併した旧南郷村は、岩手県境の内陸の農山村地域であり、合併以前から神楽やえんぶりに加え、27 年続くジャズフェスティバルなど、音と食による交流に力を入れてきた地域である。

こうした中、工業都市八戸市は多様な価値づくりを目指し、平成 22 年度から「アートのまちづくり」を掲げ、「南郷アート」と「工場アート」等の 3 本柱を設定した。

南郷アートプロジェクトを進めるに当たり、平成 23 年度に、県外からのアーティストと地域の繋ぎ役としてアート系の専門員を置くことで、地域の人的文化資源と外部アーティストのコラボが次々に育った。①ジャズとコンテンポラリーダンスを融合した「ダンス・バイ・ジャズ」の公演、②島守地区でのジャズとダンスのパレード、③廃校舎を活用した山の楽校でのひまわり畑を背景に神楽とダンスの公演、④プロのダンサーが地元のえんぶり組の動作を取り入れた舞台公演等が実施された。また、

「アーティスト定住実験プログラム」により、地域住民とのさまざまな交流や話し合いが育った。このほか、郷土史家と若者が「すまもり中世の田んぼクラブ」を結成して、体験交流活動を始め、廃校となった 3 小学校では、地域の人も出演するストーリー性のある映画をつくるなど、多くの活動が派生している。

こうした八戸市のアートを通じたユニークな仕掛けにより、地域にふつうにあるものが外部のアーティストの目と動きで迫力あるものに生まれ変わることを知ること、地域の人に誇りと自信が生まれるとともに、外部の人を交えた活動の中で既存の組織にとられない新たなネットワークが生まれるという化学変化が起きている。

八戸市が、過疎の農山村の持つ都市部にはない伝統的価値を注視し、さらなる価値を上乘せしよとしていることは、過疎地域に対する基本的な姿勢として極めて高く評価できる。



南郷サマージャズフェスティバル 25 周年時に、アマチュアミュージシャン 150 人でどっきり演奏を仕掛けた「ミュージックモブ八戸」。



閉校となる 3 つの小学校を舞台に、児童、教職員、地域住民と一緒にダンス映画を製作する「映画つくろう！」プロジェクト。



お客さんは会場となっている「家」に上がり、門付け芸のごとく、さまざまなパフォーマンスがやってくるのを楽しむイベント「南郷コシツ」。

### DATA

### 青森県 八戸市 (はちのへし)

団体名▶八戸市

所在地▶〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 ※( )内は八戸市南郷事務所  
(〒031-0111 青森県八戸市南郷大字市野沢字黒坂11-10)

連絡先▶TEL:0178-43-9156 (0178-82-2111) FAX:0178-41-2302 (0178-82-3517)  
E-mail:machi@city.hachinohe.aomori.jp (nango@city.hachinohe.aomori.jp)  
URL:http://www.city.hachinohe.aomori.jp/

#### 【交通のご案内】

自動車▶東北自動車道八戸線 八戸ICから約15分  
(東北自動車道八戸線 八戸ICから約30分  
// 南郷ICから約3分)

鉄 道▶JR八戸駅から本八戸駅まで約10分(JR八戸線)、降車後徒歩5分  
(JR八戸駅から本八戸駅まで約10分(JR八戸線)  
本八戸駅から路線バスで約40分)

飛行機▶三沢空港からシャトルバスで約45分

#### ▶国勢調査人口 (単位: 人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
八戸市	184,680	245,617	248,608	244,700	237,615
(旧)南郷村	10,332	7,438	6,688	6,272	5,878

#### ▶人口増減率 (単位: %)

市町村名	H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
八戸市	28.7	-3.3	-4.4	-2.9
(旧)南郷村	-43.1	-21.0	-12.1	-6.3

#### ▶高齢者・若年者比率 (H22年) (単位: %)

市町村名	高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
八戸市	23.2	14.1
(旧)南郷村	33.4	10.9





## 多様な人材による中越の新しい地域づくり 「にいがたイナカレッジ」



「千年の市じろばた(農家レストラン、直売所)」の長期インターン生(右)と受け入れ先のお母さん。1年間、仕事と暮らしを共にし、実の親子のような関係を築いている。

### 事例の概要



ムラビト・デザインセンターのメンバー。左から野村佑太、日野正基、阿部巧、金子知也。

新潟県中越地域は、新潟県の真ん中に位置し、長岡市、柏崎市、十日町市、魚沼市などの中心部のほか、周辺には広大な中山間地域が存在する。2004年に起こった新潟県中越地震により、中山間地域における小規模集落の多くが被災をした。災害復興のため、ボランティア等の力を借りながら、将来的に活気のある集落として存続していくことを目標に、様々な地域づくりを進めてきたが、地域の担い手づくりが課題となった。こうした課題解決に向け、公益社団法人中越防災安全推進機構ムラビト・デザインセンターでは、将来の地域の担い手づくりや地域活動を活性化させるため、都市部の若者が1年間集落に滞在しながら、暮らしを学ぶ「にいがたイナカレッジ」長期インターンシップ事業を実施するほか、首都圏での交流イベントやツアー、短期滞在型のプログラム等の段階的なプログラムを実施している。このような地域内外の人材と復興支援員等の人材との連携を図りながら、震災復興を超えた活気ある「新しい中越の日常」を目指している。

### 評価のポイント

「にいがたイナカレッジ」と名付けた今事業は、都市部で暮らす若者に田舎暮らしを体験してもらおうインターンシップを核とした事業である。1年間の「長期」と1カ月程度の「短期」など様々なメニューがある。インターン生には月5万円、受け入れ側には同4万円の手当を支給している。

本格的に事業を始めた平成24年度以降、長期インターンで24人を受け入れ、農業体験や特産物販売所などで働きながら、地元の催しなどへの参加を通じて「田舎」を学んでもらっている。インターン生はその後、ほぼ半数が定住している。インターンを受け入れている集落・地域は延べ50程度に上る。

外部から若い人材を招いて地域の新たな活力にしようという点では「地域おこし協力隊」と同じだが、期間が短く、応募のハードルを低くしている点が大きく異なる。これは、外部の人材に最初から過度に期待するのではな

く、「田舎のライフスタイルや、そこで暮らす人々に共感を抱いてもらう」ことこそが、移住につながる近道なのではないか、という同団体の考え方に基いている。

地域おこし協力隊が国の財政支援をベースに取り組みされているのに対して、地域主導の人材誘致事業である点も大いに評価できる。しかも、行政主導ではないので、同事業にかかわる民間職員が固定されており、その分、事業の継続性も期待できる。

この「にいがたイナカレッジ」は新潟中越地震を受けた様々な復興活動のひとつという位置付けになっており、インターンシップ事業の財源も主に震災復興基金から支出されている。同基金は残高が少なくなっており、基金に依存しない事業形態が課題になる。同団体は受け入れ地域が費用を負担する形への移行を模索している。

今事業は都市から地方への人材誘致の新たな手法といえ、高く評価できる。



インターンシップをスタートするに当たり、目的や目標設定、活動計画づくりなどの研修を実施。



地域のみなさんと農作業をするインターン生。仕事から暮らしまでひっきりめて地域の皆さんが先生となり、暮らしを学ぶ。



東京で開催した「全国移住女子サミット」。先輩移住者が自らの想いや暮らしを都市に住む人たちに伝えている。

### DATA

### 新潟県 長岡市 (ながおかし)

団体名▶公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター  
所在地▶〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト2F  
連絡先▶TEL:0258-39-5525 FAX:0258-39-5526  
E-mail:info@c-bosai-anzen-kikou.jp URL:http://www.cosss.jp/

#### 【交通のご案内】

自動車▶関越自動車道 長岡ICから車で15分  
鉄道▶JR上越新幹線・信越本線 長岡駅から徒歩5分  
飛行機▶新潟空港から  
バスで新潟駅→JR上越新幹線・信越本線「長岡駅」



#### ▶国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
284,028	289,234	292,887	288,457	282,674

#### ▶人口増減率(単位:%)

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-0.5	-2.3	-3.5	-2.0

#### ▶高齢者・若年者比率(H22年)(単位:%)

高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
25.4	14.3



## 「水源地の村」発！

つなぐ、つたえる、つづける 森から海へ、  
奈良・和歌山の県境を越えた流域連携のしくみ



森林環境教育へのニーズに応じた体験プログラムを提案・支援。大学を含む学校教育機関の利用は年間 70～80 件、4,000 人を超えている。

### 事例の概要



中流域を訪ねるツアーでの公益財団法人吉野川紀の川源流物語職員と村民のみなさん

川上村は、500年の歴史を持つ吉野林業の中心地として栄えてきたが、林業の不振と2つのダム建設により、人口流出が進み、昭和40年には7,500人を超えていた人口は平成27年国勢調査では約1,300人となった。

このような動向を見据え、平成6年に「水源地の村づくり」をスタートし、平成8年には『川上宣言』を発信し、源流域の自然を守り暮らしながら、人が健やかに暮らすため欠かせない水を流域に届けつづける決意をした。

公益財団法人吉野川紀の川源流物語は、川上村が「水源地の村づくり」を実行・推進するために設立され、広域的な視点で源流域の課題解決や流域全体の水環境保全に取り組んでおり、専門性を持った人事異動に影響されない持続した活動を確保している。

村民参加の「流域学習会」等を実施することで、水源地の役割を再認識し、環境意識の向上と源流に住む誇りの醸成を図るとともに、水源地の森ツアーや参加体験型の調査研究により、流域・都市部の人々との環境保全の価値共有、理解者・行動者の増加につなげている。

### 評価のポイント

同法人は吉野川・紀の川の源流に位置する奈良県川上村が平成14年に設立した団体である。川上村が掲げる「水源地の村づくり」を担う法人として自然体験プログラムや村民参加の学習会など様々な環境事業に取り組んでおり、その拠点である「森と水の源流館」も運営している。水源地の森の見学ツアーは年間40～50件、参加者は500人を超す。

水源地からの情報発信にとどまらず、川上村が下流域の和歌山市と結ぶ水源地保護に関する協定に基づき、他の自治体や団体と連携して流域全体をつなぐ様々な事業に取り組んでいる点も高く評価できる。一連の活動は水源地で暮らす村民の誇りの醸成にも役立っている。

川上村は大滝ダムの建設でかつての中心部が水没したものの、原生林・約740㍍を10億円を投じて購入し、「都市にはない豊かな暮らし」を掲げて村づくりに取り組んでいる。森や水との共生をうたった第3次総合計画「吉

野川源流物語」を策定して以降だけでも22年の歴史がある。全国の水源地のなかでも専門人材を確保し、特質すべき活動を続けている地域といえる。

今回の表彰対象事業には直接的には入らないが、特に人口減少が激しい地区で最近、「川上村版・小さな拠点事業」と名付けて、移動販売車の運行や日用品の配送、出張診療所の開設などに乗り出した。村の基幹産業である林業の振興に向けて村や森林組合などが連携して「吉野かわかみ社中」と名付けた団体も昨年立ち上げた。

地域おこし協力隊も積極的に受け入れ、元隊員が農家民宿を立ち上げるなど新しい動きも広がっている。

最後に、村の持続可能性を左右する林業に関してひとこと付けたい。「吉野林業」と一般に呼ばれる長い歴史と優れた杉材を抱えながら、先行きの展望がまだ見通せない。美林を有する利点を生かし、従来の発想を超えた新たなビジネスモデルをぜひ、生み出してほしい。



自然体験プログラム「水源地の森ツアー」を実施。ツアー・視察等の受け入れは年間40～50件、500人を超えている。



和歌山市との「水源地保護に関する協定」(平成15年)に基づき、「和歌山市民の森づくり」の協働事業を継続して実施している。



村民参加の流域学習会を開催。環境意識の向上と自らが暮らす水源地の役割を再認識し、源流に住むことへの誇りの醸成につなげている。

### DATA

#### 奈良県 川上村 (かわかみむら)

団体名▶公益財団法人 吉野川紀の川源流物語  
所在地▶〒639-3553 奈良県吉野郡川上村迫590-2  
連絡先▶TEL:0746-52-0888 FAX:0746-52-0388  
E-mail:morimizu@genryuu.or.jp URL:http://www.genryuu.or.jp/

#### 【交通のご案内】

自動車▶南阪奈道路 葛城ICから約1時間  
西名阪自動車道 郡山ICから約1時間20分  
名阪国道 針ICから約1時間10分  
和歌山市から約2時間

鉄道▶近鉄電車特急を利用  
大阪阿部野橋から大和上市まで約1時間10分  
京都から大和上市まで約1時間35分  
大和上市からコミュニティバスで約35分



#### ▶国勢調査人口 (単位:人)

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
8,084	4,151	2,558	2,045	1,643

#### ▶人口増減率 (単位:%)

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-79.7	-60.4	-35.8	-19.7

#### ▶高齢者・若年者比率 (H22年) (単位:%)

高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
50.7	6.9



## 住民総働のまちづくり ～宇治町を次世代につなぐために～



平成14年から受け入れている兵庫県中学校・高校の農業体験事業。生徒と受け入れ農家の心の触れ合いがあり、お互いに貴重な体験となっている。

### 事例の概要



納涼祭の準備で集まったみなさん。宇治地域の納涼祭は毎年多くの人で賑わっている

宇治町は高梁市の市街地から約20キロ離れた標高350m程度の高原地域で、農業が基幹産業であり、高原特有の気候を活かしたピオーネ栽培が盛んである。

平成元年の中学校統合以降、主に「都市との交流活動」をまちづくり活動の中心に据えて取り組んできたが、長年続く人口減少により、小学校の存続の危機、地域力の低下、担い手不足などの課題が深刻化している。

こうした中、宇治地域まちづくり推進委員会では、宇治町を次世代につないでいくため、住民意識の把握や共有を行いつつ、地域課題に対応した住民総働のまちづくりを目指し、取組を進めている。

今後のまちづくりの方向性を共有するための冊子や、災害時の連絡網となる全世帯が掲載された電話帳を全戸へ配布したほか、高齢者等の居場所づくりのための「宇治カフェ」の開催、農村型リゾート施設の運営、農業・農村体験事業などを通じた都市との交流活動等に積極的・継続的に取り組んでいる。また、移住者受入サポート体制を整備し、農業研修生等の移住者への支援を地域ぐるみで行っている。

### 評価のポイント

宇治地域では、中学校統合問題の際に、住民総出で反対運動に臨んだことを背景に、地域一丸で取組を行う機運が醸成されていた。また、1990年代前半に県が進めた農村型リゾート整備事業等を通じ、都市農村交流の機会が増えていった。このような下地があり、旧高梁市時代に住民の自主的な活動の充実・強化を図ることを目的に、行政主導で進められたまちづくり推進委員会の設置も、比較的速やかに受け入れられた。

こうした地域性もあって、関西の中高校生を受け入れる農村民泊事業には、町内300戸のうち40～50戸が協力し、たかうねさくらの森公園の整備には、若手を中心に住民総出で植栽するなど、地域ぐるみの活動が展開している。また、移住者の受入支援も、地域住民によるサポート体制（住むか暮らす会）を作り、行政等との連携を図りながら、積極的な動きを見せている。

こうした中でも高齢化や人口減少は進み、地域行事を

続けるにも負担の声が上がっていった。そこで、宇治町の明日を考える会が中心となって、中学生以上の住民の意識調査を初めて実施し、「移住・定住の推進」、「行事仕分け」及び「高齢者の日常生活」の3つを取り組むべき柱に据えることになった。

そして、平成27年度から「宇治リスタート事業」として、暮らしやすい宇治地域を目指し、次世代に地域をつなぐ活動を進めている（「宇治町を次世代につなぐため」冊子を全戸配布、安全安心防災プロジェクトでの電話帳作成や納涼祭の見直しは象徴的）。

このように、地域としての活動を地道に継続しながらも、意識的に次のステージに展開させ、次世代に地域をつなごうと挑戦する姿勢は、地域運営組織の中でも先発的な要素を含んでいる。住民自らが地域を開いて、行政など外からのサポートも得ながらともに前進しようとする志を、過疎地域の地域づくりの王道として評価したい。



災害時の連絡網にもなる全世帯を掲載した電話帳【写真左】と今後のまちづくりの方向性を住民全体で共有するための冊子【写真右】を全世帯に配布した。



毎週木曜日に開催している「宇治カフェ」は、高齢者等が気軽に集える場所となり、高齢者を地域で支え合うモデル的な取組となっている。



移住者受入サポート体制が整備されており、空き家の片付けや引越しの手伝い、空き家周辺環境整備等を地域ぐるみで行っている。

### DATA

### 岡山県 高梁市 (たかはし)

団体名▶宇治地域まちづくり推進委員会  
所在地▶〒719-2232 岡山県高梁市宇治町宇治1690  
連絡先▶TEL:0866-29-2001 FAX:0866-29-2266  
E-mail:uji@city.takahashi.lg.jp URL:http://uji-irodori.info/

#### 【交通のご案内】

自動車▶岡山自動車道 賀陽ICから約40分  
中国自動車道 新見ICから約40分  
高梁市街地から国道313号線、県道85号線経由で約25分  
鉄道▶岡山駅から備中高梁駅まで  
伯備線特急やくも利用で約35分、普通列車利用で約55分  
飛行機▶岡山空港から高梁市街地までタクシー利用で約40分

#### ▶国勢調査人口 (単位:人)

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
68,494	47,013	41,077	38,799	34,963

#### ▶人口増減率 (単位:%)

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-49.0	-25.6	-14.9	-9.9

#### ▶高齢者・若年者比率 (H22年) (単位:%)

高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
35.4	15.3





## 小さく光るまちみがき



環境学習の一環として、日本一の巨樹「蒲生の大楠」がこれまで吸収してきたCO<sub>2</sub>の量を計算するために、蒲生小学校の児童も参加して行った大楠の身体測定。

### 事例の概要



Lab 蒲生郷メンバーとイベント「みどりのカモコレ」に協力して下さったみなさん

特定非営利活動法人 Lab 蒲生郷は、市町村合併により、地域が衰退してしまうという危機感から、旧蒲生町の30～40歳の若いメンバーを中心に設立された。

地域活性化のために最も大切なことは「人づくり」との考えのもと、蒲生を愛し、蒲生に生きること誇りを持たせるとともに、住民の地域活動への参画を促進するため、行政や他団体等の協働により組織的かつ継続的に活動していく中で、様々な団体や個人、さらには移住者等が加わり、地域課題の解決や地域活性化の担い手となる人材育成につなげている。

主な取組としては、日本一の巨樹「蒲生の大楠」を様々な体験プログラムと組み合わせ、着地型観光を企画するほか、移住者等による「地域の学校」の開設、こどもたちを中心に民話を絵本化する事業などを実施している。

こうした取組を通じ、蒲生地域に存在する自然・歴史・文化・食などの地域資源を見つめ直しながら、地域内外の交流を図ることで、地域住民には自信と誇りを、観光客等には共感、愛着、満足度をもたらしている。

### 評価のポイント

NPO 法人 Lab 蒲生郷では、移住者を含む会員 15 名が中心となって①蒲生の民話絵本化事業、②着地型観光「カモコレ」事業、③地域の学校「学びのカモコレ」、④未就学児の発達支援事業、⑤田の神サミット、⑥測ってみよう！大楠のCO<sub>2</sub>などを実施してきた。会員同士だけでなく会員外の住民との連携が進んでおり、人的ネットワークの深化がみられる。

活動の実践に先立って、地域住民へのアンケートやヒアリング調査を基に、「蒲生郷地域ブランディング事業」として、地域のビジョンが作成された。そうしたビジョンは、看板、案内板などに明示することによって地域で共有する工夫がされていた。また、会員や住民の主体性が重視されており、参加者、スタッフ、イベント主催者など、様々な立場で活動に関わる仕組みができていた。

当該団体の活動は新旧住民の連携からスタートし、積極的に移住者など外部の力を取り込む形で発展してきた。

当該団体の活動に関わる移住者だけでも10年間で20世帯に及びことが示すように、地域には新住民の入り込みやすい雰囲気、あるいは新旧住民が連携する機運が醸成されている。このような新旧住民間の連携による地域活力の維持・向上に、当該団体の活動は少なからず貢献していると考えられる。

さらに注目すべきは、活動範囲を柔軟に変化させていたことである。活動範囲を旧蒲生町の中心部だけでなく山間地の過疎集落にまで広げており、さらに旧蒲生町を超えた領域も活動の舞台としている。こうした柔軟さは新しい地域づくりのモデルとなり得るものであり、地域づくりの潜在能力を高めるものとして評価できる。

多様な活動が行われてきたが、地域経済への影響は限定的であり、今後は当該団体の活動を通じた雇用創出や地域に根ざした生業づくりなどにも期待したい。



蒲生郷ブランディング看板と着地型観光カモコレのパンフレット。カモコレは、平成28年度で10回目を数える。



着地型観光カモコレの体験型メニュー「蒲生の職人さんに会いましょう」。参加者は、まちあるきしながら、地元の職人さんを訪ね、ものづくりを体験。



地域の民話を基に各種団体と協働で絵本を制作し、地元園児へ読み聞かせを実施。

### DATA 鹿児島県 始良市 (あいらし)

団体名▶特定非営利活動法人 Lab蒲生郷  
所在地▶〒899-5302 鹿児島県始良市蒲生町上久徳2241番地  
連絡先▶TEL:0995-52-0115 FAX:0995-52-0110  
E-mail:lab\_kamougou@etude.ocn.ne.jp URL:http://kamo-go.net/

【交通のご案内】  
自動車▶九州自動車道 始良ICから約10分  
鉄 道▶鹿児島中央駅から、日豊本線にて国分方面行き「帖佐駅」下車。帖佐駅からバス又はタクシーで約25分。  
鹿児島中央駅から南国交通バスで約60分(東7番「重富経由」又は東11番「吉田経由」)。「蒲生支所前」で下車し、徒歩5分  
飛行機▶鹿児島空港から車で約20分



#### ▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
始良市	57,292	62,992	73,640	74,840	74,809
(旧)蒲生町	13,444	8,383	7,339	7,261	7,006

#### ▶人口増減率 (単位:%)

市町村名	H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
始良市	30.6	18.8	1.6	0.0
(旧)蒲生町	-47.9	-16.4	-4.5	-3.5

#### ▶高齢者・若年者比率 (H22年) (単位:%)

市町村名	高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
始良市	25.9	14.1
(旧)蒲生町	34.5	12.7

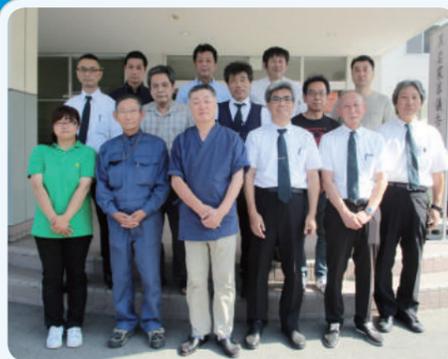


## ふるさとの冠婚葬祭をわが手でプロデュース



団体メンバーが、祭壇設置等の会場設営から引き物の仕分けまで行うなど、冠婚葬祭等のプロデュースをしている。

### 事例の概要



特定非営利活動法人 ふるさとのみなさん

信州新町地区は平成22年1月1日に長野市が編入合併した中山間地域である。この地区では、著しい人口減少や高齢化の進行等を背景に、古くから地元のお寺や自宅で執り行われていた葬儀が、葬儀を取り仕切る年長者がいなくなった事や生活様式の変化などから地域外の事業者へ委託せざるを得ない状況となっていた。また、地元商店街では、年々空き店舗が増加するとともに、葬儀に伴う料理、引き物などが地元商店から調達されることも少なくなり、地域の活力が減退する状況にあった。

こうした中、地元商店街の店主たちが団結し、「地域の事は地域が支える」を合言葉に、「特定非営利活動法人ふるさと」を立ち上げ、冠婚葬祭事業や高齢者への配食サービスなど、地域コミュニティの再生と商店街の復活に向けた様々な取組を開始した。

年間200件を超える冠婚葬祭事業は、葬儀や法事、催し物等に提供する料理、引き物、生花などを地元商店から100%仕入れるとともに、送迎用のタクシーやマイクロバスについても地元業者に委託しており、地域内の経済循環に大きく寄与している。

### 評価のポイント

地域の将来を考える中で外部に流れる葬儀などのセレモニーやパーティの費用を外に持ち出さないという発案が生まれ、平成14年、9人の事業者メンバーで任意団体を立ち上げ、地元の冠婚葬祭の受託を目指した。

平成16年に法人化の必要性から、「コミュニティの強化」「商店街の復活」「文化・しきたりの子どもたちへの継承」という活動趣旨を設定し、NPO法人となった。全員自営業者で構成され、中心メンバー9人全員が葬祭ディレクターの国家資格を持ち、宗派の違いや地元のしきたりに合わせる事が可能で、結婚式も2度行われた。また、平成23年から新たにパート1名を雇用し、高齢者向けの弁当の宅配を開始（月300食程度）、その他生活必需品の宅配も加え、安否確認も行うようになった。

地域から必然的に外へ持ち出されてきたセレモニー関係の費用を地元の商店の売り上げアップにまわす仕組みを考え、10年以上それを続けていることは高く評価で

きる。日頃地域と付き合いのある地元の商店主がチームをつくり、メンバーの誰に依頼が来ても敏速に対応するシステムは、地方の人にとって頼りがいがある。このことと地域のしきたりを大切にしながら、しかも身近な場所でセレモニーを行えることが、マニュアル的にはぬかりのない都市の業者よりも評価されている理由であろう。主要メンバーの9人の結束は固く、大輪の花輪など当初は用意できなかったものも準備可能とするなど、進化している。品物の調達先のバランスにも配慮し、弁当の発注先にも留意するなど、持続性にも注意が払われている。

その一方で、葬儀の簡素化の流れも見られる中での受注の維持や、新しい人材の参入などの課題もある。こうした課題解決に向けた新しい展開を期待したい。



長野市施設（水防会館、火葬場）の指定管理者として選定されており、地域を担う団体として重要な役割を果たしている。



高齢者への配食サービスは、弁当を地元商店街から仕入れているとともに、配送に元気な高齢者や障がい者が従事している。



高齢化が急速に進行する中、高齢者の見守り支援を兼ねた配食サービスにより、離れて暮らす家族の心配も軽減されている。

### DATA

### 長野県 長野市（ながのし）

団体名▶特定非営利活動法人 ふるさと  
所在地▶〒381-2405 長野県長野市信州新町新町31番地2  
連絡先▶TEL:026-262-2117 FAX:026-262-2270  
E-mail:sibuya@mx1.avis.ne.jp  
URL:http://w1.avis.ne.jp/~sibuya/furusato/furusato.html

#### 【交通のご案内】

自動車▶上信越自動車道 長野ICから約40分  
長野自動車道 安曇野ICから約50分  
長野市街地から約45分

鉄道▶北陸新幹線かがやきを利用  
東京から長野まで約1時間25分  
中央線特急ワイドビューしなのを利用  
名古屋から長野まで約3時間  
長野駅から路線バスで約45分

#### ▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
長野市	303,458	358,173	387,911	386,572	381,511
(旧)信州新町	12,354	8,616	6,093	5,535	4,892

#### ▶人口増減率（単位：％）

市町村名	H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
長野市	25.7	6.5	-1.6	-1.3
(旧)信州新町	-60.4	-43.2	-19.7	-11.6

#### ▶高齢者・若年者比率（H22年）（単位：％）

市町村名	高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
長野市	24.8	13.5
(旧)信州新町	43.5	9.6





みんなで汗かき がんばらまいか



耕作放棄地などを、全国から登録された「そばづくりパートナー」とともに、そば畑へと再生させ、そばの里のブランド化を図っている。

事例の概要



NPO 立ち上げから関わる NPO 役員のみなさん

静岡県の西北端に位置する佐久間地域は、面積の9割程が林野に覆われているため、山腹や僅かな平野部に40弱の集落をつくり、畑作農耕・山づくりに頼る暮らしを営んできたが、交通が不便な地域であることや経済構造の変化等も加わり、急激に過疎化が進んだ。

こうした中、特定非営利活動法人が「がんばらまいか佐久間」は、地域のことは地域で考えるという住民自治の精神の基、行政と民間の間となるサービスを提供するとともに、活動する住民に対して生きがいの場を提供しながら、すべての地域住民が協働して、豊かで安心して暮らすことのできる新たなまちづくりを推進するため設立された。

総会、理事会の下に、事務局と広報委員会、交流居住モデル事業検討委員会、そして活動の実務を行う7つの委員会（総務、保健・福祉、地域おこし、文化・スポーツ社会教育、環境づくり、女性、世代間交流）が組織され、県内登録第1号となる過疎地有償運送を開始したほか、耕作放棄地を活用したそばの里づくり、女性会員が運営する飲食店「NPOのお店いどばた」等広範な活動を行っている。

評価のポイント

「がんばらまいか佐久間」は、2005年に浜松市と合併する際、佐久間町単位での地域課題の解決と地域振興を図るための母体として、当時は希少な地域づくりNPOとして設立され、世帯の約7割を占める1270世帯が会員となっている。

主に7つの活動委員会から組織されており、主だった活動として、敬老会や成人式といった各世代を地元ぐるみで祝う場づくりは住民同士が交流できる大事な機会となり、商店街の空き店舗を改装して、女性会員が運営する「いどばた」は、地元の飲食・食材提供の貴重な場として、耕作放棄地でのそばづくりやお茶、小麦栽培と連携しながら、地産地消の可能性を広げている。また、そばづくりにはサポーター制度を導入し、地域外交流も継続させている。さらには、2007年から過疎地有償運送を運営しており、平地のみならず急傾斜地に分散する各集落とスーパーや病院といった拠点施設を結び、これまでに延

べ約4万人が利用している。

今やNPOは佐久間に「なくてはならないもの」として住民に浸透しており、その求心力をNPOタクシーが担い、NPOタクシーがあるから安心して佐久間に暮らせるというセーフティネットの役割が日々強くなっている。こうした活動を、地域運営組織の「元祖」として10年あまり継続してきた点は高く評価される。

その一方、発足当時から実働部隊や役員が固定化されるなど、担い手確保は厳しい現状にあり、参画できる会員の拡大が目下の課題となっている。

平成27年度から浜松市の委託事業を受け、アワビの陸上養殖を試みており、新たな地域雇用創出のみならず、活動費確保を目指している。また、静岡芸術文化大学との連携により、地域課題の「見える化」を図るなど、様々な連携の下で住民を巻き込んだ実践が新たに始まっている。



女性会員が運営する「いどばた」では、収穫された蕎麦や、地元産の惣菜を提供。1日40～50人の利用があり、地域高齢者の交流機会の場にもなっている。



平成19年からNPOタクシーを運行開始し、現在までの利用者は延べ約4万人。地域住民の足として欠かせないものとなっている。現在、がんばる君1号、2号が日々運行中。



新たな仕事の創出を目指し、旧給食センターを活用して、浜松市と協働してアワビの陸上養殖実験を開始。会員が交代で餌やりや水質検査を行っている。

DATA

静岡県 浜松市 (はままつし)

団体名▶特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間  
所在地▶〒431-3901 浜松市天竜区佐久間町佐久間429-1  
連絡先▶TEL:053-965-1100 FAX:053-965-1100  
E-mail:npo-sakuma@image.ocn.ne.jp URL:http://www.npo-sakuma.net

【交通のご案内】

自動車▶新東名高速道路 浜松浜北ICから約1時間  
東名高速道路 浜松ICから約1時間30分/浜松市街から約2時間  
中央自動車道 飯田山本ICから約2時間  
三遠南信自動車道 鳳来峡ICから約40分  
鉄道▶飯田線普通列車を利用  
豊橋から佐久間まで約2時間  
飯田線特急ワイドビュー伊那路を利用  
豊橋から中部天竜まで約1時間10分  
中部天竜から佐久間まで約2分  
佐久間駅から徒歩5分

▶国勢調査人口 (単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
浜松市	568,214	698,982	786,306	804,032	800,866
(旧)佐久間町	18,858	9,729	6,008	5,336	4,549

▶人口増減率 (単位:%)

市町村名	H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
浜松市	40.9	14.6	1.9	-0.4
(旧)佐久間町	-75.9	-53.2	-24.3	-14.7

▶高齢者・若年者比率 (H22年) (単位:%)

市町村名	高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
浜松市	22.6	14.1
(旧)佐久間町	51.3	6.2





## 古代からの贈り物 「宇智の大野」を未来へ



毎年8月16日はライトアップコンサート「ゆかた・デ・ナイト」を開催。外の夜店では「家守倶楽部」を中心としたボランティアが店の設営や運営、後片付けを行う。

### 事例の概要



施設保守、資料整理、ガイド等をサポートするボランティア「家守倶楽部」のみなさん

五條市では、市内外に誇るべき自然・歴史・文化的遺産を数多く有しているにもかかわらず、郷土愛の希薄化や人口減少及び少子高齢化に伴う地域コミュニティの衰退が見られていた。

このような中、特定非営利活動法人うちの館は、五條市民をはじめ一般の人達に対して、明治期の建築された登録有形文化財である藤岡家住宅を拠点に、文化、芸術などを通して多様な交流活動を展開し、様々な情報やノウハウを発信することでまちづくりに寄与することを主たる目的として設立され、藤岡家住宅そのものを展示物としつつ、地元其自然・歴史・文化をテーマに様々なイベントを展開している。

イベントの実施に当たっては、地域住民をはじめ、市内外から『家守倶楽部（やもりくらぶ）』と称する登録ボランティア会員を募り、運営や資料の整理等、事業運営支援への自主的・積極的な参加を得ており、イベントへの参加のみならず、ボランティアとして事業運営そのものに参画する機会を設けることで、郷土への愛着心を育むとともに、地域づくりに取り組む人材育成を行っている。

### 評価のポイント

明治期の建築物で登録有形文化財に指定されている藤岡家住宅では、特定非営利活動法人「うちの館」の構成員4人と地域内外から応募のあった「家守倶楽部」のボランティア会員が、藤岡家住宅に残されている歴史文化遺産の整理、保存、研究に努めながら、文化、芸術、観光など、五條市における交流活動事業の拠点として、希薄化する地域コミュニティの復活の中心的役割を果たすなど地域の活性化に貢献している。

地域の歴史文化をテーマに開催される様々なイベントには市内外から多くの人々が訪れるきっかけとなり、地域の小中学校を招いて行われる住宅の見学会やスケッチ大会などの課外授業は、子どもたちや住民の地域への関心を深め、郷土愛の醸成へと繋がっている。また、事業者の協力で開催されるランチサロンでは、郷土食である柿の葉寿司などの地域の季節食が提供され、地場産業の振興にも一役買っている。

古くから結婚式や集会の場として家屋を提供していた藤岡家住宅は、現在も人と人との交流を大切にしながら地域住民や市内外からの訪問客の拠り所として、色あせない威厳と輝きを維持している。「今あるもの」と「人」を最大限に生かし、地域の未来を見据えた取組として高く評価できる。

今後も継続的にこうした取組を行っていくに当たっては、財政基盤の確立を図るとともに、更なる地域住民の参加と理解を促す取組を強化し、教育機関や行政の協力も得ながら、五條市の他の旧跡や行事を巡るなどの連携を図ることで、この素晴らしい文化財を中心とした取組がより広く地域に受け入れられ、引き継がれていくことを願う。



藤岡家住宅の中庭にある樹齢250年の長兵衛梅。藤岡家住宅では、開花時期に合わせて俳句大会を開催するとともに、見学に訪れる地域の子どもたちに無料公開している。



俳人・藤岡玉骨の生家である藤岡家住宅には、地域の子どもたちが見学やスケッチに訪れる。子ども俳句教室も毎年開催し、子どもたちの地域を愛する視点を育てている。



毎年恒例の藤岡玉骨記念俳句大会は、150名以上が応募するイベントとして定着。大会当日は定員50名の会場が満席となり、多くのマスコミが取材に訪れる。

### DATA

### 奈良県 五條市 (ごじょうし)

団体名▶ 特定非営利活動法人 うちの館  
所在地▶ 〒637-0016 奈良県五條市近内町526番地  
連絡先▶ TEL:0747-22-4013 FAX:0747-22-4013  
E-mail:info@uchinono-yakata.com URL:http://www.uchinono-yakata.com/index.html

#### 【交通のご案内】

自動車▶ 阪和自動車道 美原JCTから約45分  
京奈和自動車道五條道路 五條北1Cから約5分  
国道24号 奈良市街から70分 本陣交差点から11分  
鉄道▶ 南海高野線特急こうや号を利用  
南海なんば(大阪)から橋本まで42分  
近鉄特急京都線ほか特急列車利用  
京都から吉野口まで90分  
JR和歌山線普通列車を利用  
橋本から北宇智まで28分  
吉野口から北宇智まで6分

#### ▶ 国勢調査人口 (単位:人)

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
43,477	40,089	39,928	37,375	34,460

#### ▶ 人口増減率 (単位:%)

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-20.7	-14.0	-13.7	-7.8

#### ▶ 高齢者・若年者比率 (H22年) (単位:%)

高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
28.9	14.6





## “元気な笑顔でおもてなし” おばちゃん達による地域活性化への挑戦



開店準備を進める真田いこい茶屋のメンバー。女性ならではの心温まる「おもてなし」が訪れる人々を出迎える。

### 事例の概要



真田いこい茶屋のみなさん

九度山町では、商店街の空洞化により、買い物を近隣市町のスーパー等に依存している状態であった。同時に過疎化と高齢化で地域のコミュニティが希薄化していた。

このような中、平成19年度に官民が協働して地域活性化に向けた事業を企画・実施する「九度山町まちなか活性化協議会」が組織され、この取組に参加した女性住民有志が、行政に頼るだけでなく、『地域が元気になるためには私たちが何かしなければ！』という強い思いを持ち、平成21年6月に「真田いこい茶屋」を設立した。

スタッフは地域に住む女性がボランティアで従事しており、観光客へのおもてなしをはじめ、買物弱者である高齢者のためのミニ商店としての役割を担うとともに、コミュニティの再生を図るための憩いの場を提供している。

これら「おもてなし事業」、「地域の生活支援事業」及び「地域貢献事業」を柱に、地域課題の解決に向けた事業を展開するほか、お弁当作りや地域資源（特産品富有柿、弘法大師ゆかりの世界遺産、戦国武将真田幸村公など）を活用した新商品の開発を行っている。

### 評価のポイント

大河ドラマ「真田丸」の主人公・真田幸村ゆかりの地として盛り上がりを見せ、世界遺産も有する歴史の街である九度山町では、町が運営していた休憩所をより良くすべく、地域づくりを担う住民クラブの女性メンバー15人が立ち上がり、「真田いこい茶屋」をスタートさせた。

空洞化が進む商店街にあって、平均年齢65歳以上のパワフルで人なつこい女性達により年間300日開放される茶屋は、増加する訪町客のための観光案内所として町の出張所のような役割を担うだけでなく、地域に寄り添い、多くの町民の拠り所として県や町に「期待を超える」と言わしめる働きをみせている。

気負わず、無理をせず、できる範囲で、自分たちも楽しめる地域貢献をという意識と、仲間との信頼関係、強い絆こそが、ボランティア要素が強いにも関わらず継続してこられた理由である。皆でアイデアを出し合い、山菜や米など町内産の無農薬栽培した食材にこだわった

おもてなし弁当「おっぱい弁当」、「六文銭弁当」及び「町石弁当」は、地域愛にあふれた九度山の特産品として認知され、おもてなし弁当コンテストで入賞するなど地域活性に貢献している。素朴で滋味深い弁当は、女性達のおもてなしの気持ちと九度山地域への想いに溢れている。

こうした活動により観光客のリピーターの獲得に繋がっているだけでなく、地域に寄り添った運営が地域住民の日常生活の一部となり、真田いこい茶屋は「九度山の顔」として存在感を發揮している。

今後は、担い手の育成を見据えとともに、ボランティア要素が強い買い物支援、食料品販売といった高齢者支援事業を発展させながら、持続可能な取組に昇華させ、おもてなしの気持ちにあふれた笑顔を次の世代にも伝えてほしい。



施設外観：古い空き家を活用しており、観光客と地域住民が共に利用し、交流する新たなコミュニティ形成の場となっている。



店内にはオリジナル商品をはじめ土産物が並び、食料品も販売し、観光客のみならず地域住民の買い物の場となっている。



地域資源をテーマとした三種類の「おもてなし弁当」を開発。どこか懐かしい素朴な味が好評を得ている。（要事前予約。諸条件有り。）

### DATA 和歌山県 九度山町（くどやまちょう）

団体名▶真田いこい茶屋  
所在地▶〒648-0101 和歌山県伊都郡九度山町九度山1722-1  
連絡先▶TEL:0736-54-9058

【交通のご案内】  
自動車▶阪和自動車道 美原北ICから60分  
西名阪自動車道 郡山ICから60分  
鉄 道▶南海電鉄 難波駅から九度山駅まで約70分  
（橋本駅にて乗り換え）  
九度山駅から徒歩10分



#### ▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
8,544	7,693	6,073	5,516	4,963

#### ▶人口増減率（単位：％）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-41.9	-35.5	-18.3	-10.0

#### ▶高齢者・若年者比率（H22年）（単位：％）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
35.9	12.1



# 平成2～27年度 過疎地域自立活性化優良事列表彰

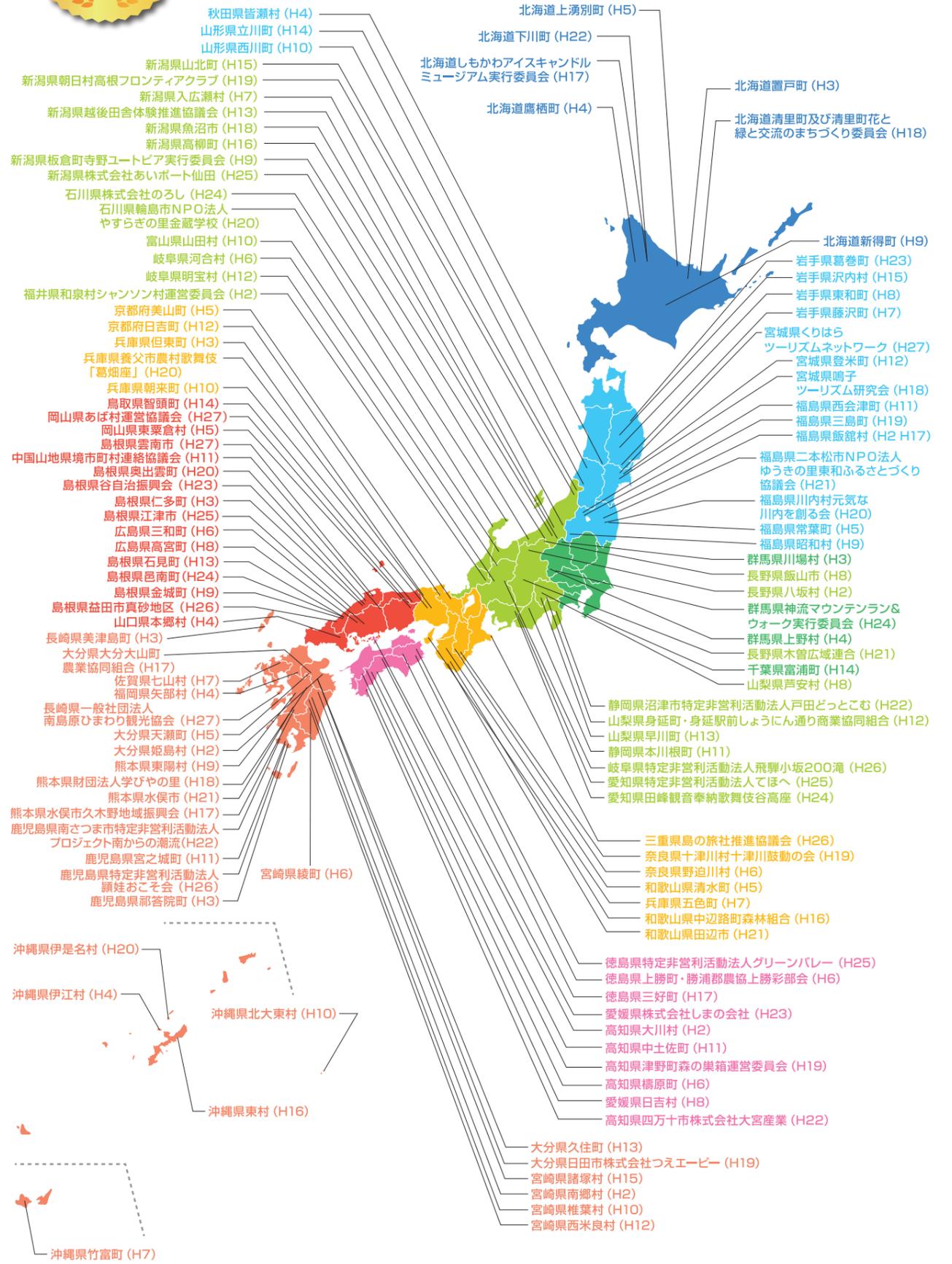
総務大臣賞 受賞団体一覧 (平成12年度までは、国土庁長官賞)

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯館村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
	宮崎県	南郷村	
平成3年度	北海道	置戸村	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
平成4年度	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
平成5年度	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東粟倉村	
	大分県	天瀬町	
平成6年度	岐阜県	河合村	
	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	高知県	梶原町	
	宮崎県	綾町	
平成7年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入浜瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成8年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉町	
平成9年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成10年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成11年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成12年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町・身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成13年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	
平成14年度	山形県	立川町	
	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	
平成15年度	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	
平成16年度	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
	沖縄県	東村	
平成17年度	北海道	しらかわアイスクリームミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯館村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
平成18年度	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
平成19年度	福島県	三島町	
	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえービー	日田市
平成20年度	福島県	元気な川内を創る会	川内村
	石川県	NPO法人 やすらぎの里金蔵(かなくら)学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
平成21年度	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
	長野県	木曾広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
平成22年度	北海道	下川町	
	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
平成23年度	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
平成24年度	群馬県	神流マウンテンラン&ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	珠洲市
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
平成25年度	新潟県	株式会社 あいポート仙田	十日町市
	愛知県	特定非営利活動法人 てほへ	東栄町
	島根県	江津市	
	徳島県	特定非営利活動法人 グリーンバレー	神山町
平成26年度	岐阜県	特定非営利活動法人 飛騨小坂200滝	下呂市
	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 頼娃おこそ会	南九州市
平成27年度	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
	岡山県	あば村運営協議会	津山市
	長崎県	一般社団法人 南島原ひまわり観光協会	南島原市



# 受賞団体位置図



## 平成3～27年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰

全国過疎地域自立促進連盟会長賞 受賞団体一覧 (平成11年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞)

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鷺沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大森町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
平成17年度	青森県	NPO法人グリーンエネルギー青森	鱒ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	曾爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曾福島	木曾町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすくベグリーンツーリズムさかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曾町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり 株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社 萩の会	益田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO法人 ひっぽUターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人 奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄り会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人 なかわり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんでこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人 IORI倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市

## 受賞団体位置図

